

## 編輯室の内外

窓外から送つて來る新緑の香には若返りざるを得ない氣候と爲つた、編輯にも亦此新味を表はさなければならぬ、で、表紙を取替へた内容も改訂したかつたが遂に其の意を得なかつたのは頗る遺憾だ。

大阪朝日新聞が近畿から山陰、九州、山陽方面と言つた順序に自動車を驅つて産業道路を調査するそつだ、政府が産業道路の改良を放棄した無自覺さを世に紹介するのであらう。之に依つて今日の農村疲弊の根源が農村道路の劣悪に在ることを證據立てゝ呉れるであらう、兎に角路政が民衆的に取扱はるゝやうに爲つたことを喜ぶ。

道路を利用する自動車と道路改良との經

濟價值を研究して、合理的に道路を改良することは當然であるが、我國に於ては往々にして其のことが忘れられてある、で、今回之を研究して本誌に發表する方針を立てたが、主として地方農村道路の改良に關して經濟調査をやつて見たい考だ、遠慮なく此調査機關を利用して合理的改良計畫を立てゝ貰ひたい。

お隣りの道路課で、年度末に爲つてから八ヶ間敷言つて居るので立ち聴きすると、廣島縣が軍事國道の費用を二十萬圓も繰越すと言ふので繰越豫算に手違を生じて縣の繰慢さを責めて居るのだ、成る程起債を制限されてし度い仕事も出來ずに困つて居る地方が澤山あるのに、國庫が工費の全額を負擔する國道の改良を遠慮してある手緩い廣島縣があるのには、編輯子も口アツクリ。

昭和五年度に於ける新事業も漸く決定した、何れ理事會に附議した上で發表するであらうが、路政の進運に應ずる否な夫れを指導するものが澤山ある筈、同人苦心の存する所を見て貰ひたい。

本誌定價 五十錢  
一ヶ年分 金六圓

東京市麴町區大手町一丁目内務省内  
發行所 社団法人 道路改良會

發行兼編輯者 小島 效

東京市小石川區諏訪町五六

印刷所 常磐印刷所

印刷者 堀江 關武